

最新動向：生体材料と先端デバイスをつなぐ学際的アプローチ

開催日時：2017年9月5日（火） 13：30～18：30

本シンポジウムでは「新たな動向：生体材料と先端デバイスをつなぐ学際的アプローチ」というタイトルで、ユニークな学際研究により新たなバイオデバイスの可能性を模索されている著名な研究者、あるいは新進気鋭の研究者を招待してシンポジウムを行います。例えば機械工学、ソフトマテリアル、3Dマテリアル、生化学的ダイナミクスなど、M&BEバイオ関連セッションにおいて、今後進展していくであろう「境界領域研究」をピックアップして紹介します。応用物理学会の関連研究者に、新たなインスピレーションを与えることを目的としています。 ※一般講演も受け付けておりますので奮ってお申し込みください。

招待講演者

荏原 充宏 (物質・材料研究機構)

「スマートポリマーで拓く未来医療」

木戸 秋悟 (九州大学 先導物質化学研究所)

「微視的培養力学場設計による細胞行動・機能操作」

瀧ノ上 正浩 (東京工業大学 情報理工学院)

「バイオソフトマターのマイクロパターン形成の物理と分子ロボットへの応用」

亀井 謙一郎 (京都大学 物質-細胞統合システム拠点)

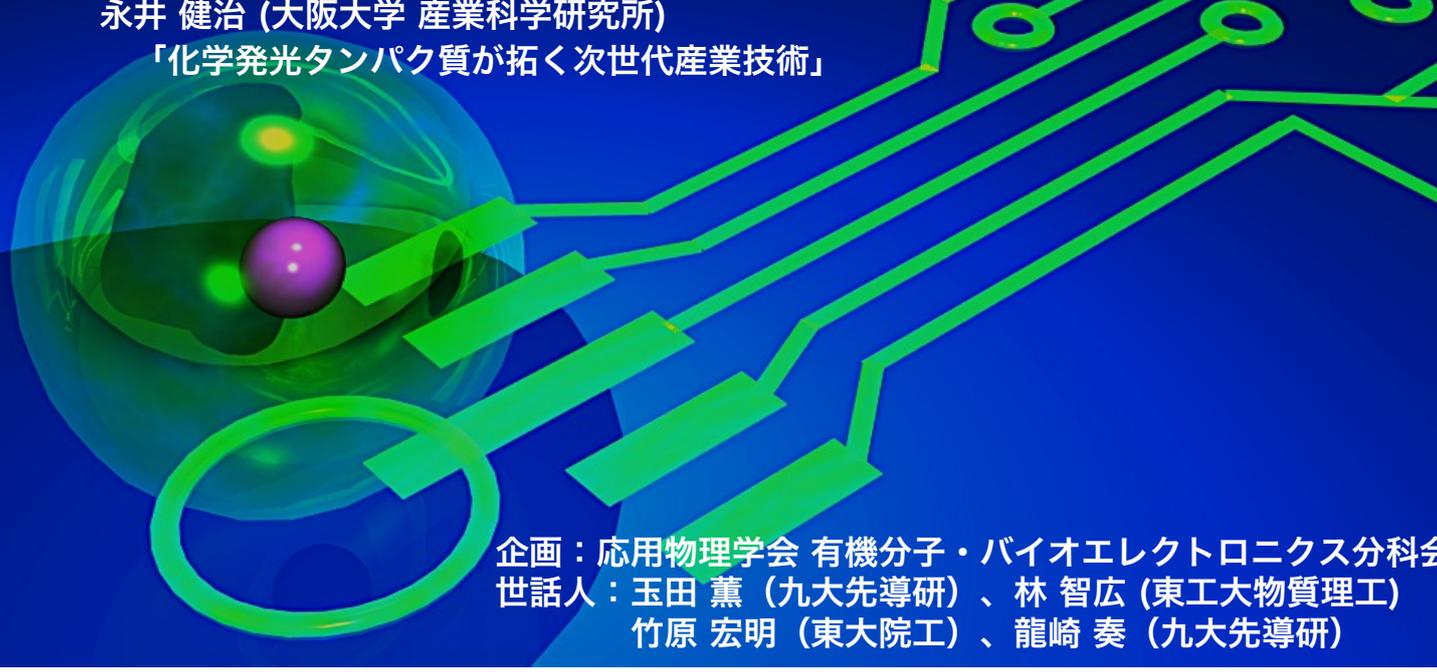
「Body on a Chip: 生体外ヒトモデルの開発とその応用」

井嶋 博之 (九州大学 工学研究院)

「臓器工学の構築と再生医療 -肝臓-」

永井 健治 (大阪大学 産業科学研究所)

「化学発光タンパク質が拓く次世代産業技術」



企画：応用物理学会 有機分子・バイオエレクトロニクス分科会
世話人：玉田 薫 (九大先導研)、林 智広 (東工大物質理工)
竹原 宏明 (東大院工)、龍崎 奏 (九大先導研)